

問1 北海道北部の利尻島・礼文島において、地域の産業を持続させるために行われている取り組みの背景と内容として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 東京都公立入試 類似）

1. 高齢化による労働力不足を補うため、昆布養殖や漁業の技術を伝える後継者の育成・支援が行われている。
2. 土壌の性質を改善することで、生産額が減少したサトウキビに代わる新たな特産品の開発が進んでいる。
3. 昆布の需要減少に対応するため、漁場をすべてレタスなどの大規模な野菜工場に転換する計画が進んでいる。
4. 観光客の減少を食い止めるため、閉山した金山の坑道を再活用したテーマパークの建設が進んでいる。

問2 北海道における外国人宿泊客数の月別統計を見ると、1月から3月にかけての時期に数値が大きく上昇するという特色があります。この時期に観光客が多く訪れる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. パウダースノーと呼ばれる良質な雪でのスキーや、雪まつりなどの行事を目的に訪れるため。
2. 本州よりも早く開花するサクラの鑑賞や、春の大型連休を利用した旅行者が増えるため。
3. 梅雨がなく、ラベンダーなどの花々が満開になる夏の涼しい気候を避暑目的で好むため。
4. 秋の紅葉シーズンに合わせ、新幹線を利用して広大な農地の収穫風景を見学に来るため。

問3 北海道の太平洋側で夏に発生する濃霧は、周辺の気候や産業に大きな影響を与えます。この霧が発生する一因となっている、北から南下してくる寒流の名称として正しいものを選びなさい。（2026年 鳥根公立入試 類似）

1. 親潮
2. 黒潮
3. 対馬海流
4. 日本海流

問4 北海道の気候的特色を活かした産業と、それに伴う人口の動きについて述べた文として、正しいものを選んでください。（2024年 岡山公立入試 類似）

1. 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。
2. 年間を通して温暖で湿潤な気候であるため、特定の時期に労働者が増減することなく、外国人人口は常に一定である。
3. 梅雨の影響を強く受ける夏の気候を利用した稲作が盛んであり、その収穫期である秋にのみ外国人人口が急増する。
4. 冬の降雪が少ないため、一年中安定して工場を稼働させることができ、工業に従事する外国人人口が年間を通して安定している。

問5 北海道の地理的特徴や自然環境について述べた次の文のうち、知床半島に関連する記述として正しいものはどれか。（2017年 愛知公立入試 類似）

1. 世界自然遺産に登録されており、海と陸の生態系のつながりが保たれているほか、周辺にはラムサール条約登録湿原もみられる。
2. 亜熱帯の気候に属し、独自の進化を遂げた固有種が多く生息することから、小笠原諸島とともに世界自然遺産に選ばれている。
3. 親潮（寒流）の影響を強く受けるため、夏季には季節風が温められて上昇し、年間を通して降水量が非常に多い地域である。
4. 流氷が接岸する北限の地として知られ、広大な泥炭地が広がることから、全域が世界文化遺産に登録されている。

問6 日本の諸地域の特色をまとめた統計において、人口が約532万人であり、豊かな自然環境を背景に宿泊施設の延べ宿泊者数が約356万人、温泉地数が244箇所と全国的にも上位に位置する一方で、国宝の指定件数が1件にとどまっている地域はどこですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

1. 北海道地方
2. 中部地方
3. 九州地方
4. 関東地方

問7 北海道の県庁所在地である札幌市の気候の特徴を説明した文として、統計データに基づき正しく述べたものを次の中から選びなさい。（2022年 熊本県公立入試 類似）

1. 1月の平均気温が氷点下の約マイナス5度まで下がり、年間の降水量は各月100mmから150mm程度で推移する。
2. 1年を通じて気温の変化が小さく、1月の平均気温も15度を上回り、夏に極めて多い降水量が見られる。
3. 1月の平均気温は5度前後であり、夏には梅雨の影響で雨が非常に多いが、冬は乾燥して晴天が続く。
4. 夏は非常に高温になる一方で、冬の降水量が極端に少なく、年間降水量が1000mmを下回る乾燥した気候である。

問8 夏の北海道東部の太平洋沿岸では、濃霧（海霧）が発生しやすいため、8月の日照時間が約127時間にとどまる釧路のように、札幌（約171時間）と比較して日差しが遮られる傾向があります。この濃霧を発生させる要因となる、北海道の東側を南下する寒流の名称を次の中から選びなさい。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 千島海流（親潮）
2. 日本海流（黒潮）
3. 対馬海流
4. リマン海流

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 高齢化による労働力不足を補うため、昆布養殖や漁業の技術を伝える後継者の育成・支援が行われている。	利尻・礼文の両島では、高品質な昆布養殖や漁業が主要な産業ですが、全国の離島と同様に人口減少と高齢化が深刻な課題となっています。そのため、地域の伝統的な生業と「利尻昆布」のブランドを守ることを目的として、移住者の受け入れや若手漁業者の技術習得をサポートする後継者育成支援に力が入れられています。地理的条件や自然環境を活かした産業構造を維持するための重要な施策です。
問2	<b>答え 1</b> パウダースノーと呼ばれる良質な雪でのスキーや、雪まつりなどの行事を目的に訪れるため。	北海道の観光は、かつては夏が主流でしたが、近年は東アジアなどの雪が少ない地域から、良質な雪（パウダースノー）を求めて冬に訪れる外国人が急増しています。1月から3月はスキーやスノーボードといったウィンタースポーツに加え、さっぽろ雪まつりなどの冬のイベントが充実しているため、宿泊客数が増える傾向にあります。
問3	<b>答え 1</b> 親潮	北海道の東方沖を北から南へと流れる寒流は「親潮（千島海流）」です。夏に太平洋から吹く湿った季節風がこの冷たい親潮の上を通過することで、水蒸気が冷やされて霧が発生します。一方、黒潮（日本海流）は日本の南岸を北上する暖流であり、この霧の発生原因とは異なります。
問4	<b>答え 1</b> 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。	北海道は梅雨の影響をほとんど受けず、夏は涼しく冬は雪が多いという気候の特色があります。この特色を活かした観光業や農業が発展しており、特に占冠村やニセコ町のような国際的なリゾート地では、冬のスキーシーズンや夏の避暑シーズンに外国人労働者が増加します。このように、その土地の自然環境や気候が、産業構造や地域住民の構成に大きな影響を与えています。
問5	<b>答え 1</b> 世界自然遺産に登録されており、海と陸の生態系のつながりが保たれているほか、周辺にはラムサール条約登録湿原もみられる。	知床は、流氷が運ぶ栄養分による海洋生態系と、それを糧にするヒグマやシマフクロウなどの陸上生態系が密接に関わっている点が評価され、世界自然遺産となりました。選択肢にある「季節風が温められて」という記述は、親潮が寒流であることを考えると誤りです。また、小笠原諸島は「東洋のガラパゴス」と称されますが、知床とは気候帯も登録理由も異なります。
問6	<b>答え 1</b> 北海道地方	北海道は、広大な土地と豊かな自然資源を活かした観光業が盛んで、温泉地数や宿泊者数は全国有数の規模を誇ります。一方で、明治時代以降の開拓が歴史の中心であるため、近世以前の文化財を中心とする国宝の指定件数は、古くからの歴史を持つ他の地方に比べて少ない傾向にあります。
問7	<b>答え 1</b> 1月の平均気温が氷点下の約マイナス5度まで下がり、年間の降水量は各月100mmから150mm程度で推移する。	札幌市の気候は、北国特有の寒冷な性質を持っています。気温の面では、1月の平均気温がマイナス5度付近まで低下する厳しい寒さが特徴です。降水量の面では、本州以南で見られるような梅雨や台風による極端な降水量の増加が少なく、年間を通じて各月100mmから150mm程度と、比較的安定した推移を見せるのが冷帯（亜寒帯）に属する地域の傾向です。
問8	<b>答え 1</b> 千島海流（親潮）	北海道の東側の太平洋岸には、北の千島列島方面から冷たい海水が流れてくる寒流の千島海流（親潮）が通っています。夏の湿った空気がこの冷たい海面によって冷やされることで水蒸気が凝結し、大規模な濃霧が発生します。これにより、釧路などの地域では夏の日照時間が短くなります。